

授業科目名	講義等の内容
生化学Ⅰ	化学の立場から生命現象を理解するための基本として、生体を構成する無機質、糖、脂質、タンパク質、核酸等の生体物質の立体的な構造、性質、働きについて教授する。
生化学Ⅱ	生化学Ⅰで得られた知識をもとに、生命の基本単位である細胞レベルでの生体物質の代謝、および個体が生命活動を営むため、それぞれの特異な作業を分担している器官の生化学的特徴について講義する。
解剖学Ⅰ	人体解剖学を学ぶ。人体を構成するさまざまな器官を機能別にまとめ、肉眼レベルで、その形態と構造の成り立ちおよび特徴を学ぶ。さらに、他の器官群との相互関係を学ぶ。
解剖学Ⅱ	人体発生学と組織学を学ぶ。人体発生学では、受精卵から始まる細胞分化、組織形成、器官形成、個体発生の過程を学ぶ。組織学では、生体組織の細胞レベル、組織レベルの構成要素や成り立ちの仕組みを学ぶ。
生理学Ⅰ	生体のもつ内部環境を一定に保つシステムの中で、循環、呼吸、消化、分泌、排泄などの機能について、物理学、化学、生物学に関連付けて講義する。
生理学Ⅱ	生体の『知覚する（感覚器系）』、『認識する（神経系）』および『働きかける（運動器系）』機能、すなわち、動物性機能について、細胞レベルから個体レベルの生命現象のメカニズムを学ぶ。
微生物学	微生物の進化や微生物の分類、形態、構造と機能、代謝と発育、遺伝子操作法、変異と遺伝、耐性と感受性、感染と免疫などについて講義する。また、ヒトの疾病とその病因や免疫等について講義する。
微生物検査学	検体の採取、取扱い、各病原菌の形態、生物学的活性、免疫反応、毒性試験など菌検索に必要な知識と衛生、滅菌、不活性化等について教授する。
病理病態学	病理病態学は疾病の本態を考察、解明する学問である。したがって、疾病共通の変化を論じ、病気の本質を理解し、さらに代表的な各疾患の原因、発生のしくみ、病態、経過、転帰を理解する。この過程で種々の病態や検査所見、形態学的変化がどのように関連し、統合されているかを教授することにより、医療の実践における基盤を築く。
病理検査学	病理学的検査法が医学、医療に果たしている役割を理解し、病理学的検査法の基本的な意義、方法論を教授する。病理組織標本や特殊染色標本の意義、原理、作製法を理解する。さらには免疫組織化学的検査法や凍結切片作成法、細胞診検査法、病理解剖の役割について教授する。

授業科目名	講義等の内容
生体防御検査学	生体が持つ免疫防御機構の概要とそれを担当する免疫細胞、サイトカイン、免疫器官について解説し、それが破綻した場合に生じる自己免疫病、免疫不全症、アレルギー、癌等や細菌・ウイルスなどの感染症の発症メカニズムについて教授する。
高感度分析検査学	生体防御機構で産生される抗体やそれを測定するための抗原抗体反応の基礎知識を教授し、抗原抗体反応が何故他の測定法に比べて優れているかを理解させ、実際に微量物質の測定法およびウイルス等感染症やホルモン、アレルギー、腫瘍マーカー検査に関わる検査技術について教授する。
血液検査学 I	血液の成分や機能、その生成と崩壊等についての基本事項を習得させる。また、血球等の形態学については白血病などの診断と治療に直結するため、形態学とともに分子細胞学についても学ばせる。また、造血器官、止血作用の凝固線溶系についても血液疾患と検査との関わりについて教授する。
血液検査学 II	血液採取、検体の保存、取扱いなど血液に関する基本的事項や血球の顕微鏡観察、血球の計数と疾病、凝固と線溶系の検査について学ばせる。
健康食品学	臨床検査技師に栄養学、食品学、臨床栄養学および健康食品に関する現状の問題点と有効性を教授し、科学的根拠ある臨床検査データを基に栄養学の面から健康食品の活用ができる人材を育成する。併せて健康食品と医薬品との相互作用等の生体内現象を教授し、一般消費者に健康食品の正しい使用法とその被害から守ることのできる人材育成を図る。
栄養学	食物と健康の関わり，疾病の治療における食品の重要性や，食物の消化や栄養素に関する基礎知識を教授する。
食品衛生学	食品添加物・規格基準・輸入食品・食中毒等について学ぶとともに、自主衛生管理や管理方式についても広く学習する。
環境・食品検査学実習	食品衛生に関わる食品検査および大気・水質汚染についての環境検査を実習し、公衆衛生における検査の重要性を理解する。
公衆衛生学 III (環境)	人の健康増進に役立つ生活環境を確保するため、栄養・食品衛生分野と飲料水、下水、廃棄物や室内の環境などの生活環境と公害問題等について教授する。
微生物検査学	検体の採取、取扱い、各病原菌の形態、生物学的活性、免疫反応、毒性試験など菌検索に必要な知識と衛生、滅菌、不活性化等について教授する。
細菌検査学実習	腸管系細菌、呼吸器系細菌、化膿菌、嫌気性細菌などの染色所見や生化学的・生物活性の状態、分離培養所見、薬剤の感受性、耐性試験、血中薬物測定、細菌数の同定や免疫学的所見、遺伝子診断などを実習する。

授業科目名	講義等の内容
病態生理機能検査学	循環、呼吸、体液、神経などの生体の生理機能を調節している各器官について、主な疾患の基本的な病態を理解するとともに、病態解明のための検査法を体系的に学習する。
病態代謝機能検査学	生体の代謝機能や防御機能を調節している各器官について、主な疾患の基本的な病態を理解するとともに、病態解明のための検査法を体系的に学習する。
臨床医学Ⅰ	医療制度、疾病の分類と成り立ち、主な症候、患者の心理、救急医療への対応などを学習し、疾病を医学的のみならず社会的、心理的側面からも把握できる基本的能力を育成する。
臨床医学Ⅱ	主な疾患の病因、病態、症状、検査所見、経過、治療について学習し、医療における臨床検査の役割を理解するとともに、検査結果を正しく管理、分析、評価するための基礎的能力を育成する。
薬理学	薬物の基本的な作用発現機序について、物質代謝の促進、阻害機序の視点により教授し、さらに主要薬剤について、発病時の生体の生化学的病理と関連づけ、その作用と副作用について教授する。
健康食品法規	健康食品に関して消費者と製造・販売業者間で問題となる点を整理し、食品（健康食品）の製造、品質規格、販売に関する法規の概要を学ぶ。さらに健康食品の表示で問題となる虚偽・誇大広告、効能・効果等における薬事法違反例と適正取引の景品表示法、特定商取引法を教授する。
保健医療制度論Ⅰ	医療行政、衛生行政、衛生法規および社会保障制度について、医療および保健に関わる専門職として業務を遂行するために必要な内容を教授する。また、看護に関わる関係法規にも言及する。